

# おれんじニュース

No289

2014年4月号



3月2日仰烏帽子。登山口までのアプローチも登山道も荒れていたが福寿草はこのとうり 写真・野中氏

今月号の記事	新しい仲間・孔大寺山～湯川山・武雄御船山～牛尾梅林・三角岳・ 仰烏帽子山・中里の虚空蔵山～西河内の虚空蔵山&ちゃんこ鍋
--------	--

オレンジHC定期総会 4月5日 10:00～：場所：西諫早公民館

★集会・委員会のお知らせ★ 山行の一步は集会参加から				
	2014年4月	2014年5月	時 間	場 所
運営委員会	8日(火)	6日(火)	13:30～15:00	西諫早公民館
全体集会	23日(水)	21日(水)	19:00～21:30	西諫早公民館

宗像の孔大寺山と湯川山縦走  
ビューポイントに感激！ (\*^\_^\*)



## 三角岳はどんなところ？



写真提供：田村さん&佐藤氏

## 2014/4月の山行



部	技術研修部	ひまわり山行部	山行部
月・日	4/20(日)	4/25(金)	4/27(日)
山名(行事)	由布岳(1583.3m)	吾妻岳(870m)	倉木山(1160m)
地 図	別府西部	島原・愛野	別府西部・小野屋
集 合 場 所	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	西諫早駅 8:00 諫早駅裏 8:10	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30
難 易 度	初級&中級	初級	初級
帰 着 時 間	19:00	17:00	16:10
歩 行 時 間	4h、5h	3h	2.5h
交 通 手 段	マイクロバス	マイカー	マイクロバス
宿 泊 施 設	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	有り	有り	有り
参 加 費	5,000円	1,000円	5,000円
申 込 期 限	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第
集 約	佐原	林	田中
備 考	サクラソウを眺めましょう。お鉢めぐりも希望者はいきますよ。	ヤマツツジと自然交配したミヤマキリシマが美しいでしょう。	草原の花々が誘うのびやかな草大地です。新緑と春の花を楽しみましょう。
感想文提出	4/30	5/5	5/7

### 技術研修部より

セルフレスキュー 3月29日(土) 西諫早駅9:30  
4月28日(土) 西諫早駅9:30

\*セルフレスキューは登山で事故を起こさない為の訓練です。  
また、事故に対処する技術を身に付けます。  
レスキューの心得があれば、事故予知能力が身に付き  
事故を未然に防ぐことができます。



### 全国連便り

昨年、労山会員14名が亡くなるという重大な事態となりましたが、年が明けても、重大な死亡事故が引き続き発生しています。鳥取県の大山大で、3月9日に日帰り登山に出かけて行方不明となっていた岡山県の3人の男女労山会員が、3/11~12に残念ながら遺体で発見されました。

あいつぐ死亡事故の連続は、私たちの活動に重大な警鐘乱打しています。各地方連盟・各会  
は山行計画をもう一度見直し、安全対策を強化していただくようお願いします。(P10関連記事)

# 2014/5月の山行



部	技術研修部	山行部	ひまわり山行部
月・日	5/3(土)~5/4(日)	5/17(土)~5/18(日)	5/23(金)
山名(行事)	蒜山高原	祖母山系 大障子岩	眉山(819m)
地 図	蒜山	見立	島原
集合場所	諫早駅裏 6:00 西諫早駅 6:10	西諫早駅 6:20 諫早駅裏 6:30	西諫早駅 7:30
難易度	初級&中級	中級	初級
帰着時間	5/4 10:30	5/18 20:00	17:30
歩行時間	3h、6h	3h、6h	2.5h
交通手段	マイクロバス	マイカーor ジャンボタクシー	マイカー
宿泊施設	蒜山高原津黒荘	学校跡地検討中	日帰り
温泉	有り	有り	有り
参加費	18,000円	13,000円	1,000円
申込期限	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第
集 約	佐原	田中	林
備 考	カタクリの花の美しい山を歩きます。	アケボノツツジの美しい頃でしょう。	七面山に登ります。
感想文提出	5/13	5/27	6/3

## オレンジ第35回定期総会開催

日時：4月5日(土) 10:00~15:00

場所：西諫早公民館

## 新しい仲間の紹介



こんにちは。丸田美晴です。実は、入会二回目といっても、前回、入会金を払ったり、申し込み用紙を書いた記憶がありません。ですから、再入会でなく、初入会にしてほしいです。はじめまして。丸田美晴です。ホテルのテーブルクロス、浴衣、シーツ、タオルなどのクリーニング工場員です。よろしくお願いします。

# 2014年2月/3月の山行報告



岩手山

2月22日(土)

## 孔大寺山・湯川山縦走登山

(参加者) 福岡、川原、中須賀、松岡、佐原、国分、田中静、下釜、高森、林和、山口、外(北九州田中)  
(計 12名)

(行程) 西諫早駅 6:30 — 古賀 IC — 赤間 — 池田バス停 — 孔大寺神社遥拝所登 9:30  
— 孔大寺山頂 10:40 — 垂見峠 12:00 — 湯川山頂 13:30 — 承福寺門前バス停  
14:30 — 唐津海道赤間祭り — 酒蔵祭り — 宗像大社参拝 諫早着 17:30

(感想)

先日来の寒波もすっかり遠退き朝の冷えはあったものの、今日はいい天気。今日の山行は福岡 宗像の山 孔大寺山と湯川山の二座縦走。

北九州の田中さんと孔大寺山登山口で待ち合わせ それより登山開始。登山口よりいきなり810段の石段が始まる。

大小の石を無造作に積み上げ勾配もかなりある。あちこちで見る 鬼が一夜にして作り上げたという石段 を思い起こさせる。この石段を登ってくる人も少ないからだろう登山口に遥拝所を

もうけてあったのが頷ける。50分程で神社へ。神社では胴回り9m 樹高35mの大銀杏が神殿を守るように立っている。秋の黄葉は見事だろう。それより30分程で山頂へ。山頂は眺望もきかない。三角点を確認して先を急ぐ。今度は急降下45分程で二座の谷間にある垂見峠へ。

暖かい春のひざしを受けながら昼食。

午後は湯川山へ ここも石段こそないが急登。途中にはNHK、NTTの中継塔がたっており、頂上近くで北九州の田中さんの案内で 海がのぞめる所へ足を延ばすと眼下には 紺碧の響灘に弓なりに白砂青松が広がる。三里松原の景色とか。一瞬にして今までのきつきを忘れさせてくれたようだ。山頂からまた急降下30分程で承福寺が見えた時にはほっとした。

二座共に500mを切る低山でしたが急登、急降下の連続で侮れない山でした。

帰りは折から賑わっていた唐津街道・赤間宿・酒蔵祭りに遭遇し、頂いた蛇の目杯でほろ酔い気分になり道の神様として崇められている宗像大社へも参拝し帰路につきました。

今日も楽しい山行でした。 みなさん お疲れさまでした。 (山口いつこ 記)



2月25日(火)

## 武雄御船山(207m) 牛尾梅林

(参加者) 中里、山口、小山、高森、佐原、川内、兵庫、本田、松田、川原、森、佐藤、<外>北島、中嶋、橋本、中村  
(計16名)

(行程) 西諫早駅 8:20-9:30 御船山登山口 10:00-10:40 御船山山頂 11:10-11:40 登山口  
-11:50 武雄神社-12:00 大楠-12:15 神社駐車場 12:28-13:03 牛尾梅林-14:05  
(昼食) 14:25-15:15 祐徳温泉 16:00-17:00 西諫早

(感想)

御船山は近くから見ると切り立った崖がそびえ迫力がある。  
向こう側から登りますといわれ今は盛りと咲きみだれる梅林についた。

そこで体操をしていよいよ登り始める。急な階段や坂が続くが初めての人もいるのでゆっくり登り、わりと楽にいける。尾根までといていた人も全員頂上までいけた。すごい！万歳！下りも怪我しないようゆっくり下るとまた梅が出迎えてくれる。



御船山をバックに梅園の梅！

それから武雄神社に行き樹齢3000年といわれる大楠を見た。佐賀県で2番目の巨木とあるが1番はどこにあるのだろうか？いつか会えるかな。前は空洞の中まで入れたのという人もいたが今は柵をつくり入れないようにしてある。次は牛尾梅林に行きそこで昼食となる。

ここの梅もみごとで山全体が梅林となっている。帰りは祐徳稲荷近くの温泉による事になり靴を脱ぎ後を見るが後の人たちが来ない。おかしいなと思い駐車場を見るが車ごと消えている。きっと酒蔵にいったんだということで3人ゆっくり温泉につかり汗を流し帰途につきました。あまり疲れず梅もたくさん見れて楽しい一日でした。

(森 記 文中写真・中里氏のブログより)



2月28日(金)

三角岳(405.9m)

(参加者) 小山、福岡、兵庫、中須賀、山下(文)、林(和)、山口、金丸(直)、川内、林(孝)、田村、佐藤

(12名)

(行程) 西諫早駅前 6:57→金立 8:10→松橋 IC9:40→  
三角岳登山口 10:25→三角岳頂上 13:00  
→天翔台 14:50→三角岳登山口 15:30→不知  
火温泉センター16:45→松橋 IC17:10→西諫  
早駅前 19:50



## (感想)

マイクロバスは、西諫早駅前を予定時刻より少しだけ早く三角岳を目指して出発した。

高速道路にのった途端、辺り一面は霧に覆われ前方を走っている車の姿がやがて見えなくなるといった状態であったが、嬉野辺りから少し霧も晴れてきた。

マイクロバスは、高速道路の松橋 IC を出て三角岳登山口を目指して走り、10時25分目的地に着いた。

海拔1~2メートルの地点から、405.9メートルの三角岳を目指して、リーダーの福岡さんの先導で登り始めた。

山道は、昨夜まで降っていた雨のため地面が緩く、下山する時滑るのではないかと心配しながら急な坂道を、「滑らんようにね。」と後方からの声をききながら登った。

雲竜台近くになった頃、「雲竜台で昼食の予定をしていたが、一気に三角岳に登るぞ。」との福岡さんの掛け声、しばらく登り11時40分頃、先頭を登っていた福岡さんが「昼食までは、



まだ時間がかかるのでこれ食べとって。」とカンパンを配るために下りて来て、各人に手渡された。その姿を見て後の方から「福岡さんの気配りの良かこと、感想文に書いとってよ。」との女性の声、カンパンをいただきながら登り12時20分頃三角岳頂上に着いた。頂上からの展望、眼下にみえる霧に浮かぶ天草付近の島々、幻想的で何と表現していいの言葉がみつかりませんでした。

13時三角岳頂上から下山を始め、雲竜台を経て天翔台に到着、この頃は霧も晴れ、眼下には天草五橋の第一の橋や遠く天草を眺めることができ、まさしく絶景かな、絶景かななどの表現がぴったりの場所でした。

天翔台を出発し、15時20分頃三角岳登山口に到着し、15時30分同所を出発し、不知火温泉センターを経てマイクロバスは一路諫早を目指して高速道路を走り出した。やがて夜の帳がおり、久留米付近から辺りは真っ暗となった。

すると福岡さんが、演芸部長に早変わり、「〇〇さんどうぞ。」「次は××さん。」と次から次へと指名され、美声を聞きながら楽しく過ごさせていただきました。

今回の三角岳登山は、曇っていた天気も晴れて山登りには絶好な天気であったこと、三角岳等から眺める風景が何とも言えない風景であったこと、昼も夜も楽しく過ごさせていただきました。  
(佐藤 記)

## 3月2日(日)

### 仰烏帽子山

(参加者) 川原、中里、野中、山下(ち)、國分、福岡、中須賀、佐原、田中静、白石、外(西村) (11名)  
(行程) 西諫早駅前 6:30—諫早 IC—金立—東背振り IC(國分さん合流)—熊本 IC—松橋 IC—仰烏帽子登山口 1キロ手前 10:40—登山口発 11:10—二本杉 12:20 昼食—仏石・頂上

分岐 13:40—第二登山口ルート(地元の人に聞いた仏石への周回ルート)行く。仏石 14:10—分岐 14:20—登山口 16:10—松橋 IC—東背振 IC(國分さん下)19:40—諫早 IC—西諫早駅 20:50



(感想) 仰烏帽子山 1302m(のけえぼし)と読むが、地元の人には(のけぼし)とよばれているようです。私は忘れっぽいので、当初(ぼけぼうし)と覚えました。

入会 8ヶ月目、バス初参加。元井谷コースは十数年ぶりでした。登山道は大水害の傷跡で道なき道、涸れ沢の中を足元を確認しながら慎重に歩き始めました。

緊張感の中、気持ちを和らげてくれたのは北面に黄色い花を咲かせた早春の福寿草でした。感激!。この花に元気をいただき、残り山頂まで登る予定でしたが、時間調整の為、ルート変更となりました。この変更がかえってラッキーでした。今まで登った事が無い仏石周回ルートで、私達を待っていてくれたのは一面に咲き誇る福寿草の大群落でした。苔むした岩と福寿草のコラボ。最高の感動満喫の一日でした。



前日に急きょ参加を受け入れて下さった集約担当の佐原さん有難う御座いました。又リーダーの国分さん、川原さん、山下さん有難うございました。

最後に今日初めて参加した友人が下山中、難所の足場を踏み損ない内村航平なみとまでないがみごとな二回転しました。彼女を守ってくれたのは正しく背負ったリュックでした。皆さんご心配かけましたが左膝のかすり傷ですみました。

(白石 記)

**3月16日(日)**

### 中里虚空蔵山・西河内虚空蔵山&ちゃんこ鍋

(参加者) 中里、野中、工藤、佐藤、山口、松岡、山下(ち)、山下(文)、森、林田、高森、下釜、中須賀、福岡、川原、小山、田中(静)、兵庫、外(松永) (19名)

(行程) 喜々津駅 8:30—中里河畔公園 8:45—同所出発 9:00—木床の虚空蔵山 9:30—中里の虚空蔵山 10:22—西河内の虚空蔵山 11:13—下山—中里河畔公園 12:30—ちゃんこ鍋会開始—14:30 解散



(感想) 絶好の山日より近くの山に登れて、しかも下山したらちゃんこ鍋が用意してある、なんて聞くと絶対参加したくなるシチュエーションであった。

中里河畔公園はいつもセルフレスキューで利用している所。この上に「歯に手を当てた毘沙門天様」がおられて、皆、まず歯が良くなります様にと拜んで上へ進む。

川原さんのホームグラウンドなのでこの日は特



別に木床の虚空蔵山へも立ち寄ることに。

この辺りは信仰の厚い人が多いと見えて生の花が供えてあった。少し枯れていたが・・・。

途中、手入りを放棄されたミカンの木から少しだけミカンをいただいて喉の渇きをうるおした。とても甘かった。！！

もうすぐ中里の虚空蔵山という辺りで「トントン坂」という所を通ったがそういう音はしなかった。ただ、昔から採石が行われて地面の中が空洞になってるらしいのでひょっとして我々の重みで空洞が潰れはしないか少し不安になった。

中里の虚空蔵山では素晴らしいながめで福山雅治のおばあちゃんの家があそこだからミカン畑とカーブした海岸線は此処の事を歌にしたに違いないとか解説した人がいた。



川原さんがロープを出して身の安全を保ちつつ昔クライミングしてた岩壁を皆に見せていた。青いホールドが付けてあって何とか登れそうな気がした。

少しお腹も空いてきたので先を急いで中里公園の広場に行った。ここは車で来れる場所なので子供連れの家族や小学生がまとまってきていた。車の通る場所は相変わらず沿道にゴミが多く自然保護部長さん始め皆さんせつせとゴミ拾いに精を出していた。

私はせつせとツワブキを取ってちゃんこ鍋の手伝いで

残った下釜ちゃんにお土産にした。

西河内の虚空蔵山は公園のグラウンドの端っこにあった。外側がりっぱなコンクリート作りなのでトイレかと思った人もいた。しかし中には自然石を沢山重ねて趣のある屋根をつくってあった。

急にお腹が空いてきて、ここでの参拝もそこそこに野中さんに連絡を取りながらコンクリート道を必死で下りてちゃんこ鍋の待つ中里河畔公園へ帰り着いたのは12時40分だった。



相撲部屋と同じというちゃんこ鍋は昆布と椎茸でたっぷり出汁を取った本格的な味だった。アルコールも飲むひとがいてまるで昼間の宴会である。オレンジはこれが持ち味！。

松永さんが今日が誕生日と聞くと中須賀さんが春の目出たいお謡いをやり、次から次へと限なく続く宴会であったが2時半をメドに終焉とした。

松永さん、野中さん、下釜ちゃん、ごちそうさまでした！。  
(山下ちず子 記)

本日のちゃんこ番・松永さん

## 八甲田山雪中行軍、弘前部隊に見る凍傷予防策

- 手足が冷えて知覚を失ったときは、布でよく摩擦したのち、徐々に温めること。決して急速に温めてはならない。
- 河川を渡るときは、はだして渡り、渡り終えてから水分をよく拭き取り、靴下を穿くこと。濡れた足のまま靴を履いてはならない。
- 水筒の水は七分目ほどにとどめ、少量のブランデーを入れ、行軍中に水筒をゆすって水が凍らないよう注意する。
- 凍傷防止のため、小便は最後の一滴までしぼり、風に向かっての放尿は避けること。
- 放尿後は、ボタンはもちろん、ふんどし、袴下(ズボン下)で陰部を十分に包むこと。
- 立ったままでの小休止の際、足踏みをして身体が冷えるのを防止すること。
- 腰をおろして休憩するときは、方二尺の桐油紙(とうゆし)を腰掛け用として臀部に敷くこと。

(山下康博著「指揮官の決断」より)

## 鳥取・大山遭難>「疑似晴天」で錯覚か

3/9 発生した遭難について、当日別に登っていた地元山岳ガイドの記事がネットに載っていましたので紹介します。(P3 関連記事)

岡山市の登山クラブに所属する3人が鳥取県の大山中で遭難した。

海外での登山経験などもあるベテランが遭難した背景には、天候の急変や無理なコース設定などがあつたとみられる。

しかし、登山には『ベテラン』というものは存在しないと思ったほうがいい。何十年の登山経験があつても、油断は禁物。

3/9日は午前中の山頂付近の天候は、曇りの中に時々晴れ間が見える『疑似晴天』と呼ばれる状態で、天候が良いと錯覚しやすい状況だった。午後2時前の気温は氷点下7度で、視界も約100mほど確保されていたが、その後天気は急変。午後3時には、視界が吹雪で5~10mほどになり、気温は氷点下8度に下がった。7日夜からは新雪が降り積もっていた。

3人は午前9時に入山し、正午に弥山山頂に到達してから剣ヶ峰、天狗ヶ峰を縦走し、元谷小屋を経由して日帰りに戻る計画だった。だが、縦走に挑むには出発時間が遅かった可能性も考えられる。

また3人がビバーク(露営)を試みたとみられることに、風の吹きさらしになる縦走路でのビバークは一般的に考えにくい。天候の悪化や、3人に何か起きたか、体力の低下で引き返せない状況にあつたのではないかと推測する。

事前に天気図や高層天気図を見るなど、天候を十分に調べる必要がある。ガイドを付けたり、天候が下り坂になれば引き返す判断など、雪山に挑む際の基本的な知識の習得が欠かせない。

次号では『疑似晴天』について紹介します。

(鎗水 記)



# 荒れに荒れてた仰烏帽子山



こんな道を必死で登ってきれいな福寿草に出会いました。





3月9日 笹岳南峰でまず咲きはじめたマンサク  
春初めにまず咲くからマンサクと言うそうです。

撮影 野中氏



おれんじニュースNo289	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2014.3.26
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	<a href="http://orangehikingclub.com/">http://orangehikingclub.com/</a>

温かくなったり、寒か  
つたりの今日この頃  
ですが御館山では桜  
や桃の花が咲き、歩き  
が楽しくなりました。  
ニュースもお陰さま  
で春一番のマンサク  
や福寿草で賑やかで  
す。お天気の山行が多  
かったようですね。  
(\*^\_^\*) (山下)